



浜風

HAMAKAZE

発行：青森県漁業士会
青森県水産振興課内
TEL 017-734-9592
編集：「浜風」編集委員会
印刷：東北印刷工業㈱

第45回青森県漁村青壮年女性団体活動実績発表大会開催

平成16年1月8日(木) 青森市の県民福祉プラザにおいて「第45回青森県漁村青壮年女性団体活動実績発表大会」が開催され、5人の発表者がそれぞれの研究テーマに沿って現状や問題点、取り組みなどについて紹介しました。いずれも地域に根ざした活動であり、昨今の厳しい漁業情勢の中で漁業や漁村の活性化に大いに貢献するものでした。発表内容は県や漁業関係者14名の審査委員によって審査され、今年度の優秀賞には川内町漁協青年部が選ばれました。

また、翌9日には同市のアスパムで漁業技術検討会が開かれ、前日の発表内容について活発な意見交換が行われました。なお、3月3日に東京で行われた「第9回全国青年・女性漁業者交流大会」において、本県代表で参加した川内町漁協青年部が農林水産大臣賞を受賞しました。



発表課題	発表者	発表内容
小川原湖産シジミのブランドを守る	小川原湖漁協 蛸生産部会 沼山 隆	小川原湖に投棄された外国産シジミの駆除や、品質上問題となる口開け貝の分布調査を実施した。また産地偽装問題にも取り組んでいる。
ナマコ資源調査	川内町漁協青年部 菊池 傑	ホタテガイを補完する漁業として重要であるナマコについて、資源量や体重別分布調査を基に小型個体の保護や資源管理を行うとともに、天然採苗による資源増大を図った。
高齢者が長く漁業に従事できる漁業・販路作りへの取り組み	易国間漁協 易国間漁業研究会 金田一 善唯	漁村の高齢化に対応して、コンブ、アワビ養殖業を展開し、各地のイベントに参加して販路拡大による漁業収入の増加を目指すとともに、環境保全にも取り組んだ。
種苗生産の取り組みについて	赤石水産漁協 石岡 誠	アユ資源の回復を目指し種苗放流に努力した結果、遊漁者が増え町の活性化につながった。また、ハタハタの種苗生産事業は町を超えた地域の協同事業となる等、地域漁業や観光振興に貢献した。
「みんなや昆布」復活を目指して	三厩村漁協 三厩村昆布養殖研究会 伊藤 良一	コンブの漁獲量が激減したことからコンブ養殖に取り組み、種苗の安定生産だけでなく、地域の食文化である「若生おにぎり」用コンブといった特産品の開発に取り組んだ。

支部トピックス

東青支部

「産卵母貝が足りない」

平内町漁協 逢坂 喜八

現在の陸奥湾のホタテ養殖生産に必要な採苗器 1 袋当たりの種苗付着数は 2 万個で、これを確保するためには湾内全体で 2 億 5 千万枚の母貝が必要とされている。母貝数と稚貝発生数の関係を表した過去の資料によると、母貝数が 1 億枚以下になったのは、養殖開始初期の昭和44年と46年の 2 回だけ。44年の付着稚貝数は採苗器 1 袋当たり477個、46年は 1 万 6 千個だった。また、大量へい死が発生した昭和50年の翌年には、母貝数が 2 億枚近くありながら、付着数は 4 千個、57年にも母貝 1 億 8 千万枚に対し、付着数1,400個という採苗不振に陥っている。その後、平成 3 ~ 13年までは 4 ~ 6 億枚と平均 5 億枚の母貝が確保された時期には付着数10 ~ 20 万個となっているので、約 5 億枚の母貝が確保されていれば採苗付着数は安心できるものと考えられる。昨年の大量へい死により、母貝は例年の5分の1にあたる約 1 億 2 千万枚しかないため、今年は採苗不振の恐れがあると思われる。したがって、採苗器投入の区域の拡大や採苗器の増加、成貝の出荷抑制などを真剣に考えてください。

採苗年度	母貝数(千枚)			付着稚貝数(個/袋)
	養殖	地まき	合計	
昭和44年			60,317	477
昭和46年			88,889	15,909
昭和50年			323,810	70,000
昭和51年			196,825	4,021
昭和57年			177,778	1,416
平成3年	328,147	248,572	576,719	133,771
平成4年	366,581	117,611	484,192	221,997
平成5年	426,157	256,520	682,677	88,796
平成6年	325,406	261,804	587,210	279,753
平成7年	480,634	138,717	619,351	222,274
平成8年	435,277	206,667	641,944	115,277
平成9年	341,735	173,674	515,409	257,365
平成10年	354,662	100,881	455,543	59,304
平成11年	354,960	98,007	452,967	67,033
平成12年	388,359	94,100	482,459	91,368
平成13年	397,483	75,315	472,798	201,256

むつ支部 「トド被害の救世主となるか？黄色い旗」

脇野沢村漁協 中村 有男



(H16.2.20 佐井村大魚島 県取締船「はやぶさ」撮影)

今年も宿敵トドがやって来ました！1月から佐井村漁協と脇野沢村漁協で被害が発生し、私の底建網も穴だらけにされてしまいました。今年こそはトドに一泡吹かせてやろうと考えていたところ、黄色い旗の効果を耳にし、早速、私も数枚の黄色い旗をたまり（キンコ）部分に付けてみました。今は、皮肉なことにトドの被害が少なく、効果ははっきりしませんが、旗の周辺は全く被害がありません。もう少し様子を見て効果を判断したいと思います。黄色い旗については、県、佐井村・脇野沢村及び両漁協の関係者が函館に出向き、得た情報だと聞きました。関係者の皆様には感謝します。

支部トピックス

三八支部

「岩手県漁業士会久慈支部との交流会開催」



2月19日に岩手県久慈市新山根温泉において交流会が開催されました。この交流会は隔年両地区持ち回りで開催され、今回で5回目となり、本県から22名、岩手県から19名が出席しました。交流会も回を重ねる度に面識も深くなり、それぞれの活動状況報告のほか、『漁船』、『磯根』、『養殖・女性』の各分科会に分かれ、より専門的な意見交換を行いました。漁船分科会では、曳き釣り漁具をもとに技術的な検討を、磯根分科会では、種市町の一線級のアワビ漁業者から、三八地区の問題点について助言いただきました。養殖・女性分科会では、むつ支部会の畑中道安指導漁業士に賛助出席していただき、ホタテの養殖管理方法や衛生検査等について、女性部門では、漁労と経理の分担による経営の安定について意見交換が行われました。翌20日は、久慈川漁協でサケのふ化事業と、H A C C Pを想定し全床面抗菌エポキシ樹脂コーティングされた種市南漁協の八木魚市場を視察し成功裏に終了しました。

日本海支部

「日本海に出現した大型クラゲ」

今期も出現した大型クラゲ、昨年度も大量発生があったが正月までには終焉した。しかし今回の大型クラゲは、発生量・時期ともに昨年度を大きく上回り、現在まで知られている知見の範囲を逸脱していた。水温が14度を下回れば衰弱し、死んでしまうだろうとタカをくくっていたが、水温が低下しても減ることはなかった。また、正月にはいなくなるだろうと楽観視していたが、1月に一旦減少したものの2月にはまた増加傾向に転じるなど、未体験の状況が次々に起こった。このヤリイカの最盛期にクラゲを駆除するために網を裂いて押し出し、せっかく入網した魚も放流するはめに…。大型クラゲのおかげで、正月明けから十分な水揚げがなく、今後に期待をかけているが、ヤリイカからの連絡はまだ届いていない。





海外派遣研修

in



韓国

15年度漁業士海外派遣研修は9月21日～28日の8日間の日程で、韓国における養殖業と水産物販売の現状について視察を行いました。

【22日】 束草水産技術管理所指導師の方とともに乗船しホタテガイ養殖施設を視察した。ホタテガイ養殖技術は日本から学んだもので設備等も日本とほぼ同じであった。日本と違い需要に供給が追いつかない状況で、組合が集中集荷し単価を設定している。束草水産技術管理所は、水産技術や漁業経営、後継者育成、漁村生活の改善などの指導から水産資源の造成やTAC制度の管理など総合的な研究機関であった。

【23日】 クーロンポにある海苑養殖場は、天然の岩場に防波堤を築き、その一部が格子を介して外海とつながっている。海底は自然をそのまま利用しており、ヒラメ・タイは放し飼いし、アワビも施設内の岩場で飼育していた。テッポウ市場では道沿いに大型の活魚水槽やイケスが並び、また店に隣接した食堂では、購入した魚を捌いて食べさせるといったサービスも行っていた。

月 日	視 察 先	地 区
9月22日	ホタテ貝養殖場 束草水産技術管理所	ソクチョ
23日	海苑養殖施設 テッポウ市場	クーロンポ
24日	ウルサン養殖場	ウルサン
25日	釜山共同魚市場 チャガルチ魚市場 国立水産科学館	釜 山
26日	済州島養殖場	済 州 島
27日	ソウル市内観光	ソ ウ ル



【24日】 ウルサン養殖場は主にヒラメの陸上養殖を行っており、その他ワカメ・コンブも生産していた。この日はウルサン海洋水産庁の視察も行う予定であったが、台風14号の復旧作業による人員不足で対応できないとのことであった。

【25日】 釜山共同魚市場は業者専門の市場で韓国最大規模であるが、衛生面では日本よりかなり遅れていた。魚を床に直に山積みしていたり、腐敗した魚や汚水が床に溜まっていたりと日本では考えられない状況であった。一般消費者対象のチャガルチ市場でも衛生面は同じ状況で、下水などの鮮度維持がされていないため、鮮魚というにはあまりにも鮮度が落ちているものが目に付いた。活魚についてはアワビやヒラメなどの高級魚だけでなく、インダイの幼魚なども活魚販売で付加価値を得ていた。また観光地だけでなく小さな商店でも水槽を置いて活魚販売していた。

【26日】 済州島では大規模なヒラメ養殖場が多数存在しており、日本向け活ヒラメ生産が盛んである。ここで生産されている養殖ヒラメは天然物とあまり変わらず、日本より進んでいるように思えた。



研修に参加した皆さんは、今回の研修で韓国の人々の熱心な姿勢を目の当たりにし、新しい発見や勉強になった事が多かったとのこと。その知識と経験を、今後の漁業経営や後継者の指導に活かしていただきたいと思います。

- | 参加者 | 氏名 | 所属 |
|-----|---------|-----------|
| | 佐々木 信 昭 | (三厩村漁協) |
| | 若 木 良 秋 | (青森市漁協) |
| | 柴 崎 秀 生 | (野辺地町漁協) |
| | 速 水 金 一 | (八戸鮫浦漁協) |
| | 生 駒 司 | (鯉ヶ沢漁協) |
| | 今 弘 樹 | (赤石水産漁協) |
| | 橋 本 喜 一 | (猿ヶ森漁協) |
| | 小 向 貴 志 | (青森水改) |
| | 高 坂 祐 樹 | (むつ水産事務所) |

海洋学院生ホームステイ

青森県漁業士会では平成13年度から県立海洋学院生を漁業実習生として、年2回受入れを行っています。今年度は4月22日～24日、10月21日～24日の期間、東青支部の皆さんが受入れをして下さいました。学院生を代表して、4人の方に意見・感想を聞きました。

ホームステイについて

後藤 亨（出身地 平内町 19歳）

私は、平内のホタテ養殖をやっている八戸漁業士さんのところにホームステイしました。八戸さんは実家と同じホタテ養殖をやっていましたが、実家とはまた違う方法でやっていて、同じホタテの養殖でもいろんなやり方があるということがとても勉強になりました。このホームステイで学んだことは、自分が将来ホタテ養殖をすることになった時に必ず役に立つと思っています。



漁村交流について

成田 雄一（出身地 小泊村 19歳）

私は春、秋の2回、東田沢でホタテ養殖をしている畑井さんのところにお世話になりました。耳吊りをしたり、選別をしたり、沖でホタテを揚げたり下げたり等たくさんの仕事を体験させてもらいました。体中筋肉痛でボロボロだったけど、本当の家族のように暖かく、とても安心して過ごせました。たくさんいろいろなことを教えてもらい、技術面、精神面、体力面が大きく成長したような感じがしました。一日一日がつらく苦しい作業だったけど、一步一步前に進んでいるような感じが、とてもうれしく楽しく思えました。



ホームステイについて

黄木 隆寛（出身地 岩手県花巻市 18歳）

私がお世話になったのは野辺地町の荒川漁業士さんでした。ホタテの養殖は単純な作業で、カゴを上げてそのホタテを出荷して終わりなのですが、予想以上につらく、その夜は筋肉痛で大変でした。けれど、そのあとに食べさせてもらったホタテはとてもおいしく、たくさん食べました。今回の体験はすごく勉強になりました。この経験は絶対に役に立つと思います。



ホームステイについて

坪田 常正（出身地 東通村 16歳）

自分は春のホームステイは発熱で欠席しましたが、秋に行くことが出来ました。初めてで分からないことが多くて大変なところもあったけれど、いろいろ教えてもらいました。



ホタテ養殖は朝は早く大変でしたが、沖ではすごく楽しく仕事が出来ました。漁業士さんと触れ合ったり、いろんな仕事を学ぶことが出来たのでよかったと思います。ここで学んだことを将来に生かせるように頑張っていきたいと思います。

海洋学院生のホームステイ研修

東青支部 八戸 翼

海洋学院の研修生として、大畑の舟木君と平内の後藤君という、無口というか寡黙というか、おとなしい？若者二人を受入れることになりました。とりあえず仕事の全容を説明したかったのですが、ホタテ養殖は実際やってみないと理解できなかったようです。前期は、最初から漁業のメインイベントである出荷から始まってしまい、育ての苦しみを知らず出荷の喜びは味わえなかったのではないかと少し残念でした。後期の稚貝の分散作業が前期日程だったら出荷の感動があったのではないかと思います。今回の研修は漁業者の生活を体験するのが目的とのこと。作業の合間の釣りや、作業後の他の漁業者とのバーベキューは、たぶん楽しい経験になったのではないかと思います。後悔する事は、彼らにマダイの引きを体験させてあげられなかった事。私だけ楽しんでしまいました。

受入漁業者

山口 隆治、神山 義照、福田 隆一、田中 正人
船橋 正彦、八戸 翼、荒川 孝一

15年度漁村交流現地派遣事業について

青森県立海洋学院 教務課長 伊藤 良博

この漁村交流現地派遣事業も今年で3年目となりました。会員の方には種々気苦労が多かったものと思いますが本当にありがとうございました。学院生11名は2回のホームステイで得るものがあった様ですので、「浜風」の紙面を借りまして報告させていただきます。漁業士の方からみればまだまだという感じがすると思いますが、漁業後継者として育っていく学院生にこれからもご指導の程よろしくお願いいたします。



新会員の紹介



指導漁業士



百石町漁協
北向 清吉

今年、漁業士に認定されました北向です。私は数年前まで地元で大工職人として働いておりましたが、父親が病気になったため後を継いで漁師になりました。幸いにして、さけ小型定置・かれい刺網・ほっき貝等の操業をそのまま引き継ぐことができましたので、毎日がんばって操業しております。まだまだ勉強不足で皆さんにご迷惑をかけると思いますが、ご指導・ご協力をよろしくお願い致します。

指導漁業士



階上漁協
畑中 淳子

今年、漁業士の認定を受けましたが、この私に何が出来るか今はまだ手探りの状態です。いか釣り漁業を営んでいる夫の手助けをしながら、経理、経営、子育てにと家業に専念してきましたが、これからは、先輩漁業士を手本としながら、地域水産業の発展と、漁家の生活安定・向上のために、知識を習得し、少しでも皆様の役に立てるよう頑張ります。

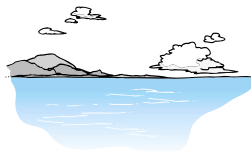


指導漁業士へ移行しました



岩崎村漁協
神馬 達雄

今回、指導漁業士に認定されました神馬です。今後も初心を忘れず努力し、先輩漁業士の皆様からご指導をいただきながら頑張る所存です。



平内町漁協
山本新太郎

今回、指導漁業に認定されました平内町漁協の山本です。今は、漁業者にとって厳しい現状ではありますが、ホタテ養殖発展のため、皆様方のご指導を受けながら今後の活動のお役に立てるように頑張っていきたいと思います。



平内町漁協
江戸 照正

今年指導漁業士に認定されました江戸です。これからのホタテ養殖業は後継者不足や環境の変化にともないますます厳しくなっていくと危機感を持っていますが、今後も漁業士会の活動を通じて、各地域の漁業者と大いに意見交換をしながら頑張っていきたいと思っていますので、よろしくお願ひします。



尻屋漁協
南谷 雅人

この度、県関係各位のご尽力により指導漁業士に移行することとなり、厚くお礼申し上げます。平成2年、青年漁業士に認定されてから14年。県内外の漁業者、漁業士の皆様より心あたたまるご指導を受けて参りました。今後はその経験を活かし、21世紀の漁業者担い手育成のため、微力ながら指導的立場で活動していきたいものと考えております。



三沢市漁協
坂岡 正彦

青年漁業士に認定されてから15年の時が流れ、この度、指導漁業士に移行することになりました、三沢市漁協所属の坂岡です。私は「食の安全」「地産地消」を考え、より良い漁業を目指し、一層の努力をして参りたいと思います。どうぞよろしくお願ひ致します。



階上漁協
上平 清助

この度指導漁業士に移行することとなり、大変光栄に思っております。今後、漁業士会の活動にできる限り協力し、微力ながら漁業振興に役立ちたいと思っています。先輩方のご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。

ご意見・ご感想をお寄せください。

青森県漁業士会『浜風』編集委員会

事務局 青森県農林水産部水産振興課内

〒030-8570 青森市長島1丁目1-1 電話 017-734-9592

(編集後記)

3月中の発行を予定していたのですが、あっという間に5月。16年度は年度内に発行できるようがんばります。今年度もまた編集委員の皆さんにはご迷惑をおかけするかと思いますがよろしくお願ひします。(花田)